



Sekison 通信

教育目標◇◇未来をひらく 石川の子◇◇

R5・12・22

NO, 22

文責：校長 酒井



2023の振り返り、さらに2024は…。

2時間目の休み時間、校長室の窓から校庭を眺めると、

ドッジボールに興じる3年生、遠く町民グラウンドには5・6年生の姿があります。ライオンズの森には、1年生でしょうか？黄色い帽子がアリのように列をなしています。

気がつけば明日は2学期の最終日、そして2023年の締めくくりの日となります。今月はインフルエンザが猛威を振るい、貴重な授業日を削ってしまいましたが、大きな怪我も事故もなく、**誰一人として欠けることなく**、冬休み、新年を迎えられることを、**支えてくださった皆様**に心より感謝します。ありがたいことです。

今年は、ゴールデンウィーク中に新型コロナ感染症が5類となり、日常の教育活動が制限を強いられた昨年までとは違い、**思い切った教育に舵を切ることが出来ました**。特に、運動会や授業参観などに保護者の皆様が足を運んでくださったことは、子ども達にとって大きな励みとなりました。体験学習や見学学習、地域学習などを積極的にいき多くの人と触れ合うことで、子ども達の経験値を高めることもできました。PTA行事の復活もとてもありがたかったです。数年間で拍車がかかってしまった友達関係の希薄化は、正直なところ解消されるまでには至っていませんが、**失敗をよしとし、ケンカや言い争いを必然ととらえて**、じっくりと子ども達と向き合った成果が確実に表れてきていると感じています。

学習面では、「**自らの腕を磨き授業の質を高めることが、本物の学力を向上させる**。」との共通理解のもと、毎回、大学の教授や指導主事等を招いて指導を受け、意見を交換しながら授業づくりを行ってきました。「教師は授業で勝負する。」を胸に、**教員一人一人が目標を掲げ、実力をつけてきた一年です**。課外活動部の活躍にも目を見張るものがあります。**もちろん子ども達の頑張りが一番ですが**、働き方改革が叫ばれる中、量より質を求め、それぞれの担当者が子ども達の意欲を引き出し持続させるにはどうあるべきか、**悩みながら取り組んだ成果と保護者の皆様のご理解と協力のお陰です**。

多忙化解消では、連絡文書の一本化や精選、7:20以降の登校や電話連絡等にご理解いただき、スタッフの超過勤務時間も少しずつ減少傾向にあります。**クレームもほとんどなく、その多くは相談や建設的な意見でした**。また、送迎のマナーをきちんと守るだけでなく、徒歩で通学する子が増えてきたのも嬉しい姿です。

しかし、課題も残ります。例年通り学校評価アンケートによって保護者の皆様には評価や様々な感想をいただくことはしましたが、直接顔を合わせて意見やお話をいただく機会が少なかったこと、5類に移行したとはいえ、猛暑やインフルエンザも重なり、縦割り班活動や異学年活動、学年の合同授業などの十分な交流の時間を確保することが出来ませんでした。また、コロナ禍の影響もあり、通信ゲームやスマートフォンの使用による課金や交友関係のトラブルが顕著となりました。

石小では、2024年もこれらの課題にスタッフ一丸となって正面から向き合い「**未来をひらく石川の子**」(たくましい子)の実現を目指します。いつでも**子どもが真ん中で楽しい学校**を目指します。これまで通りのご理解とご協力をお願いします。**良いお年をお迎えください**。

図書委員会主催<読書スタンプラリー達成者>

石小の教育の柱、読書教育。朝の読書タイム、金曜日の読み聞かせの他に、図書委員会が中心となって標記のような取り組みも行っています。12月8日現在の達成者を紹介します。(敬称略)

- 1年:高橋 由依 藤井 紀光 添田 皐月 満山 晴菜 瀬戸山 雛蘭 バーチ 弘樹
遠藤 紗梨奈 川越 悠花 目谷 優月 矢内 天喜 岩渕 未緒 緑川 摩耶
鈴木 絢仁 矢吹 柚乃 蛭田 聖 安藤 詩桜
- 2年:岸浪 陽菜 永沼 恵 石井 凜 佐藤 暖来 高原 想佑 岡部 叶歩
- 3年:遠藤 琉生 4年:瀬谷 瑞季 曾根 奈歩 伊藤 舞 長谷部 心碧 酒井 優
秋山 彩桜 5年:鈴木 裕心 青戸 夏音 高根 蓮介



鼓笛隊の話(随分と昔の思い出ですが…。)

教室に入るなり、温厚なあっ君が私の前に来て訴えます。

先生、ひどくないですか？だって僕は自分で希望してリコーダーを選んだのに…

と、結構な剣幕です。聞けば、その日の昼休みの鼓笛練習、すでに担当する楽器も決まっています、それぞれの顔合わせは済んでいたの、いよいよ練習開始です。とその前に鼓笛担当の先生から話がありました。すると、一番前の鼓隊のグループが何やらざわついてます。当然、担当の先生からのお叱りがありました。

伝統の鼓笛隊ですよ、お話をしないできちんとしなさい。特に、その小太鼓、大太鼓、シンバルグループうるさいですよ。自覚が足りませんよ。

と、ここまででは良かったのですが、その次の言葉がどうにも納得できなかった。と、あっ君は訴えます。

だって先生！「リコーダーの人だって我慢しているんですよ。」って言ったんだよ。ぼくはリコーダーをやりたくらいから希望したのに！

今から20数年前の思い出です。思い出と言ってはあっ君に失礼ですが…。

今月に入り本校では新鼓笛隊に向けての準備が始まりました。希望を聞き、オーディションを重ね、担当や楽器が決定します。石小は6年生一度きりの鼓笛隊ですので、希望通りとなるかどうかは一大事です。ですからオーディションの審査は、対象学年の担任だけでなく、音楽部、鼓笛部そして教務、主幹教諭等も行います。当然、残念ながら、第一希望の担当、楽器から漏れてしまう子ども達も大勢います。

鼓笛の醍醐味は、それぞれの担当（指揮・鼓隊・鍵盤・フラッグ・バトン…）が、曲に合わせて練習を重ねハーモニーを奏でることにあります。全体への披露の場面は運動会と鼓笛パレードのわずかに2度です。そのために多くの時間を費やしますが、それでも大切な取り組みだと感じています。例えば、指揮は隊のリーダーですから、リズム感や姿勢はもちろんですがリーダー性も必要ですし、トランペットは一朝一夕には身に付きませんので適材適所となるようその選出には頭を痛めます。希望の担当とならずがっかりする子も、希望通りで喜ぶ子も、心をついにしなければ、良いハーモニーは生まれません。つまり、演奏や形だけでなく、心をついにすることに大切な意義があります。

だからこそ、見る者は感動し低学年は羨望のまなざしを向けるのです。

12月19日（火）8：15に、新鼓笛隊（5年生）パートの発表がありました。先週行ったオーディションの発表です。後ろから見ていても子ども達の緊張感が伝わってきます。

発表後の子どもの表情は悲喜交々。5年生にとっては学校でこれまでに体験した一番の緊張感、席替えの比ではありません。合格した児童は不合格の児童に気を配り、惜しくも希望通りとならなかった児童は結果を懸命に受け止めます。そして、また一つ逞しくなります。

年が明けてからはいよいよ本格的な練習がスタートします。パートごとに6年生が5年生にアドバイスやサポートをする時間も確保されています。本当に大切なのはここから、パートの決定はまだ序の口に過ぎません。そして、如何にして子ども達の意欲を持たせ持続させ、自分のパートに責任と誇りを持たせ、自分たちの鼓笛隊とさせるかは、私たち教員にとっても大きなテーマとなります。ですから、ここでも学年を中心とした多くのスタッフが子ども達とかわります。保護者の皆様にも励ましの言葉をお願いできましたら幸いです。



＜鼓笛オーディションの様子から＞

さて、前出のあっ君ですが、運動会も鼓笛パレードもパートリーダーとなり一番前で見事に演奏しました。練習態度も実に真面目で、下級生へのアドバイスも優しく、その後の学校生活でも頼りにされる明るい班長さんでした。現在は介護施設でその大きな体をくるくる働かせ、相変わらず職場の人気者です。（個人情報ですが…）